

平成 28 年度 4 月～1 月
芦屋市立あしや市民活動センター
リードあしや事業報告書

指定管理者：(特活) あしやNPOセンター

平成 29 年 2 月 20 日作成

1 会館の管理運営業務

・会館の利用状況としては、会議室利用団体数は1,105団体、前年度1,473団体と比べると365団体下がっている。平成28年は他施設の補修工事により、増えていた利用者が元の施設へ戻ったことが要因と考えられる。

相談件数（施設利用の利用方法等を含む）と、印刷機や交流スペースの利用者が増えていることから全体の来館者数（昨年度11,767人）は上昇傾向である。

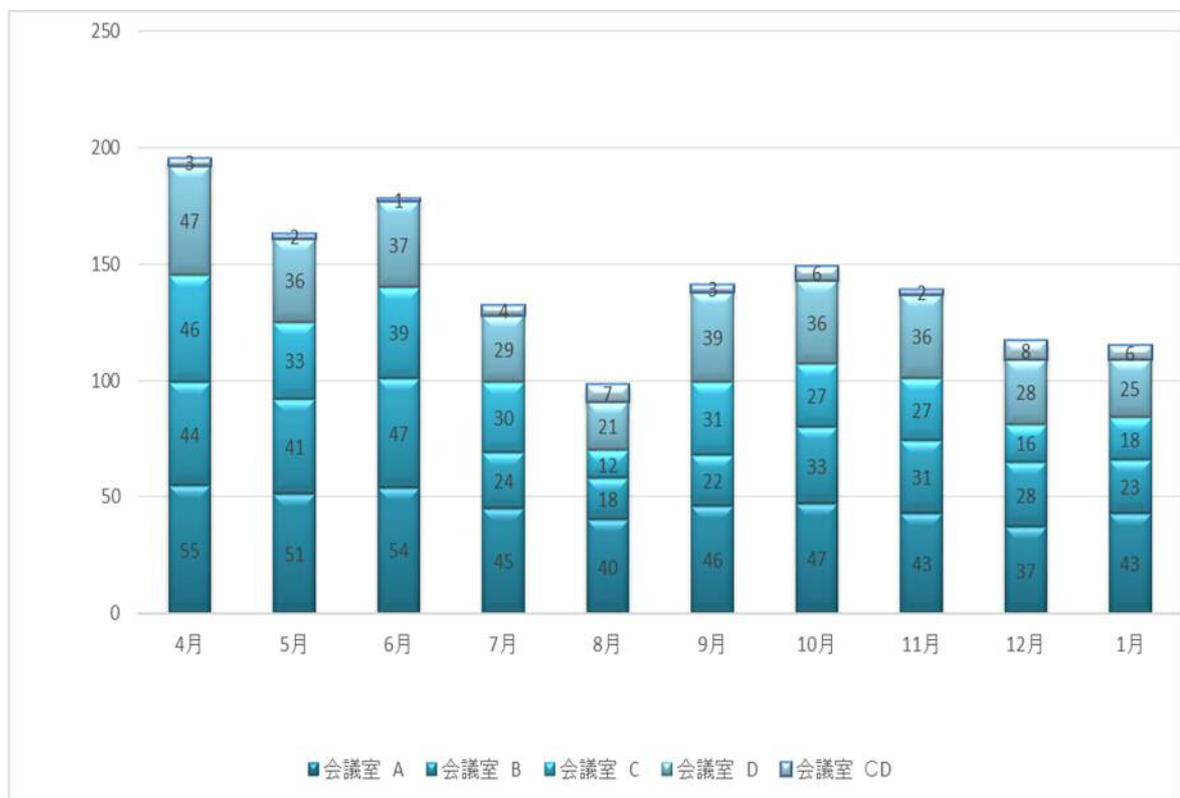
※「赤駅」とは「赤ちゃんの駅」の略である。

	会議室利用団体数						相談			施設利用							合計
	リードあしや	ウィザス	行政	指定管理	一般	合計	来館	電話	施設	会議室利用	情報見学	印刷使用	機器使用	予約	赤駅	その他	
4月	102	2	0	15	7	126	16	9	95	1,191	70	174	69	72	4	71	1,771
5月	96	2	1	16	9	124	16	8	57	1,039	18	146	26	66	0	50	1,426
6月	107	1	2	20	13	143	14	18	58	1,264	109	132	46	70	0	81	1,792
7月	86	1	3	5	15	110	14	12	53	921	48	172	53	75	0	79	1,427
8月	49	0	1	8	19	77	9	15	38	782	59	153	43	60	0	86	1,245
9月	80	1	0	14	14	109	14	10	80	986	56	187	67	92	0	97	1,589
10月	96	0	1	9	12	118	11	16	68	1,037	55	197	63	78	4	121	1,650
11月	98	0	1	9	7	115	16	9	59	949	81	178	80	89	0	92	1,553
12月	62	0	1	13	15	91	12	13	40	911	70	151	47	53	0	89	1,386
1月	66	0	1	11	14	92	14	8	41	762	79	132	52	74	0	79	1,241
計	842	7	11	120	125	1,105	136	118	589	9,842	645	1,622	546	729	8	845	15,080

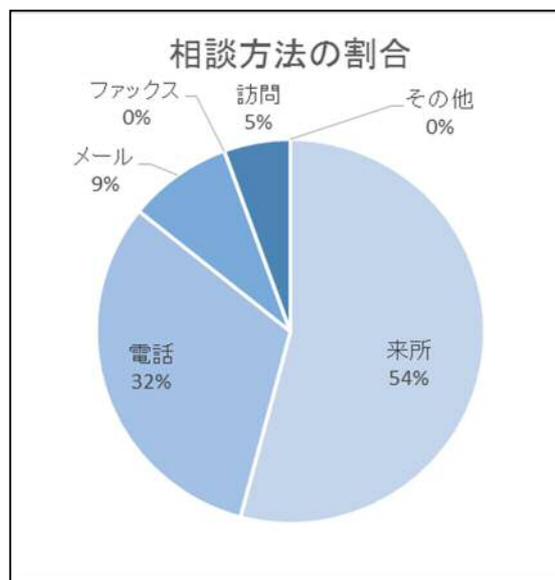
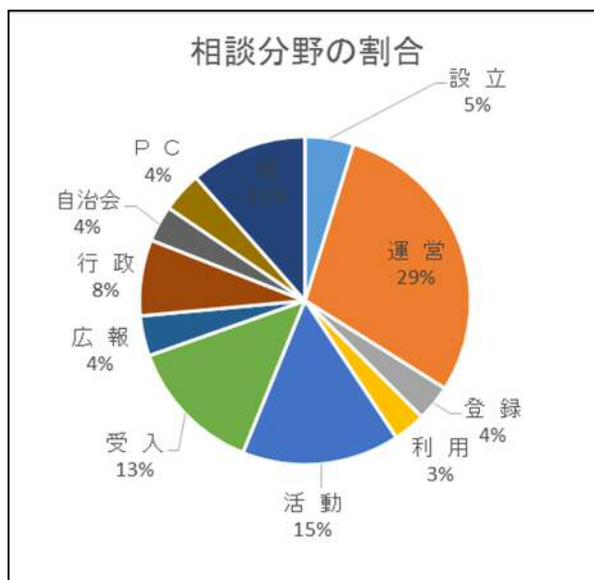
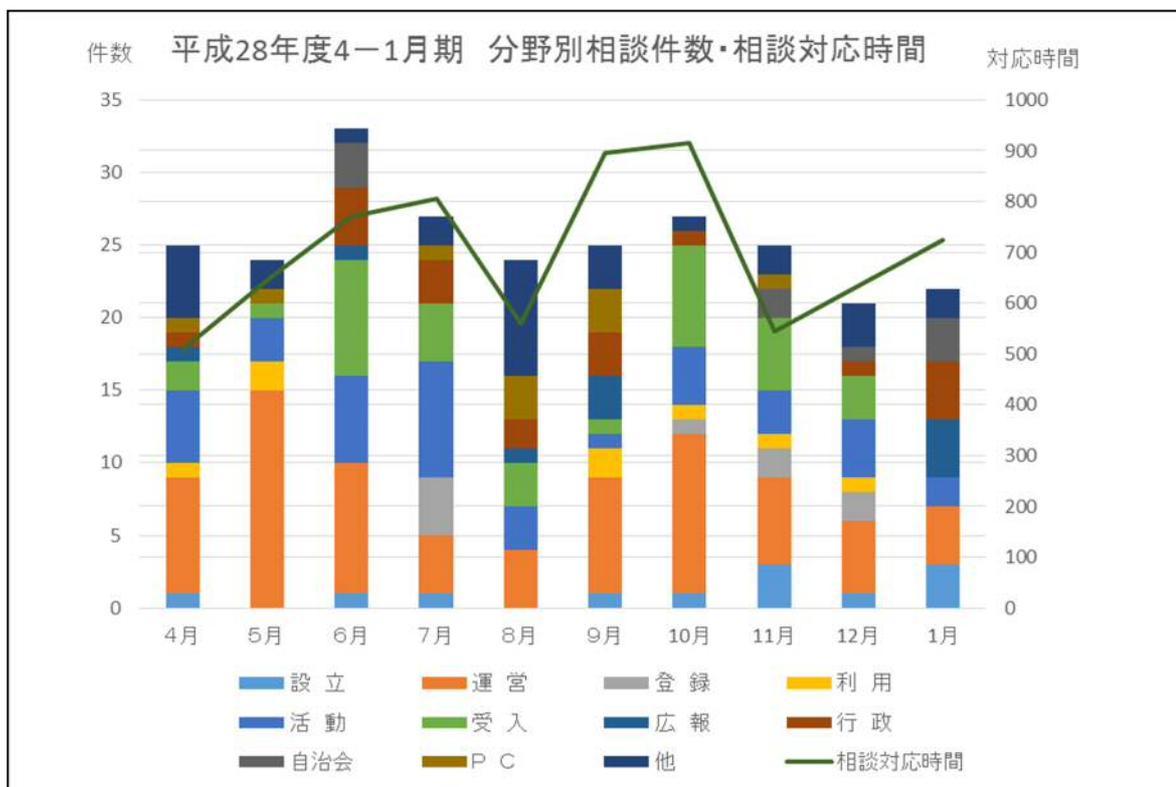


- ・NPO 関連の図書、プロジェクター、折り機等機器を無償で貸出した。
- ・会議室 A・B・C・D を貸出した。平均稼働率は 49% であった。平成 27 年度同時期の稼働率は 56% であり、7% 下がった。

	稼働日数	稼働回数	会議室 A		会議室 B		会議室 C		会議室 D		会議室 CD		合計	
			回数	稼働率 (%)	回数	稼働率 (%)	回数	稼働率 (%)						
4月	25	75	55	73%	44	59%	46	61%	47	63%	3	4%	195	65%
5月	23	69	51	74%	41	59%	33	48%	36	52%	2	3%	163	59%
6月	26	78	54	69%	47	60%	39	50%	37	47%	1	1%	178	57%
7月	25	75	45	60%	24	32%	30	40%	29	39%	4	5%	132	44%
8月	26	78	40	51%	18	23%	12	15%	21	27%	7	9%	98	31%
9月	24	72	46	64%	22	31%	31	43%	39	54%	3	4%	141	49%
10月	25	75	47	63%	33	44%	27	36%	36	48%	6	8%	149	50%
11月	24	72	43	60%	31	43%	27	38%	36	50%	2	3%	139	48%
12月	22	66	37	56%	28	42%	16	24%	28	42%	8	12%	117	44%
1月	22	66	43	65%	23	35%	18	27%	25	38%	6	9%	115	44%
合計	242	726	461	63%	311	43%	279	38%	334	46%	42	6%	1,427	49%



2 相談業務



【相談対応の状況】

＜相談件数・対応時間＞

- ・相談件数の総数は 253 件、相談対応時間は 7,005 分（約 117 時間）である。
- ・1 月末の段階で昨年度末よりも相談件数は 5% 増加している。
- ・月ごとの推移をみると 6 月が最も多いが対応時間数で見ると 10 月が一番長い。昨年度、一昨年度と異なる傾向である。

- ・1件当たりの相談対応時間は約28分である。

<相談内容>

- ・最も多いのが運営相談で29%（74件）、次いでボランティア活動に関する相談が15%（39件）、ボランティアの受け入れに関する相談が13%（34件）、行政からの相談が8%（19件）、団体設立に関する相談が5%（12件）と続いている。

<相談方法>

- ・最も多いのが来所による相談で54%（137件）、電話による相談が32%（80件）メールによる相談が9%（22件）となっており、来所相談が若干減る傾向にある一方でメール相談が増えてきている。メールで受けて面談へという流れにつながっている。

【相談の特徴・傾向】

福祉的ニーズへの対応目立つ

- ・国際交流協会や社会福祉協議会で受け付けられにくいケースや複合的な福祉課題に対するコミュニティ活動への支援希望など、対応が難しい相談が寄せられた。こうしたケースは数か月以上の伴走型でサポートしている。
- ・高齢者の居場所づくりについての相談が2件。マンションや公団など集合住宅での高齢者の孤立に危機感をもつ住民から相談を寄せられている。いずれも個人ベースで始めてから相談という形だった。

ボランティア受け入れへの関心高まる

- ・全体としては昨年度よりも現時点で受け入れに関する相談は5倍に。特に高齢者施設でボランティア受け入れに関する相談が増えた。従来のようにイベントでの演芸ボランティアの相談もあるが、自主的に企画、運営につながる受け入れのあり方（マネジメント）についての相談がいくつかあった。

ボランティア活動希望増える

- ・相談件数は2倍に増えている。ボランティア講座の開講や館内でのボランティア情報掲示など、ボランティア活動に関するアクションを増やした効果が出ているのかもしれない。

NPO・市民活動への基本的理解不足

- ・主に登録団体からだが、チェックを適切に行うように今年度からしているため、報告書や決算書の作成に関する相談が多かった。
- ・法人を設立してから運営に苦慮する団体からの相談があった。（行政書士に丸投げで申請書類作成）

隣接市域拠点の団体からの相談も

- ・芦屋市域のみで活動する団体だけでなく西宮市などの団体から連携を求める相談（音楽ボランティア）、複数市域をまたぐエリアを対象とする事業を行う団体の設立相談などが寄せられるようになった。

3 市民活動団体の相互の交流とネットワーク支援事業

- ・ 5月23日（月）から6月11日（土）まで、芦屋市内3中学校の「トライやる・ウィーク」を5日間ずつ、各3人受け入れた。
1日目センターの機能を知る。（センター内ふしぎ発見と機器体験等）2日目ボランティアとは（障がい者施設の訪問と座学）3日目NPOとは（NPO団体の活動体験と座学）4日目相談とコーディネーションの学び等と振り返りをし、中間支援としてのセンターの役割を体験してもらった。5日目成果発表会または、フェスタに参画という内容であった。
- ・ 6月11日（土）第9回あしや市民活動フェスタを開催した。「社会とかかわるきっかけの一步をみつけよう」をテーマに、前半は活動発表、後半は若手弁護士による「未来をつくる市民カフェ～若手弁護士と学ぶ社会と法～」を開いた。
- ・ 8月5日（金）6日（土）夏休み子どもスペシャルを開催した。工作や読書感想文作成など夏休みの宿題を市民団体と企業の協力もあり、18団体と芦屋市内8校141人の参加があった。
- ・ 9月16日（土）公光分庁舎に勤務する職員参加でAED講習会を開催した。
- ・ 10月19日（水）公光分庁舎全館と利用者で避難訓練を実施した。

4 市民参画及び協働に関する情報収集と提供業務

- ・ ホームページで芦屋市の情報や、登録団体のイベント告知等の情報を発信した。
- ・ 活動センター内で、ラック・パネルなどを活用して団体情報を掲示している。
- ・ ボランティア募集ボードや、アンケート報告を掲示している。
- ・ 市民活動関係図書を購入、整理を充実した。
- ・ 季刊紙「リードあしや」を4回、発行した。

5 セミナー事業

- ・ 4月23日（土）登録団体向け報告書決算書の書き方講座を開き、登録団体の事務的支援に努めた。
- ・ 5月28日、11月5日（土）はじめてみよう初心者のためのボランティア講座を開き、ボランティアの価値（対等性、社会的意義など）を理解いただいた。
- ・ 8月19日（金）第2回リードあしや自主講座企画応援事業において5団体の申請があり審査を行い、「芦屋「九条の会」」「NPO法人「絵本で子育て」センター・絵本講師の会」「芦屋Tioクラブ」の3団体の講座支援をした。
- ・ 10月8日、22日（土）NPO・ボランティアグループのためのかきかた講座1回目「なるほど！伝わるチラシの作り方」2回目「プロに学ぶ！伝わる文章の書き方」を開いた。より短く伝わる文言のポイントやテクニックなど具体的な助言と、事前に提出いただいた文章の添削が受講生から評価された。
- ・ 12月9日（金）ボランティア受け入れの基礎講座を開いた。豊かな施設・組織になるのか考える。ボランティア受け入れの具体的な手順やポイントを押さえ、

ボランティアとのよい関係を作るためのノウハウを話し合った。

6 ボランティアコーディネーション

- ・ 4月2日（土）、4月3日（日）「第28回芦屋さくらまつり」では、6団体と個人合わせて51名のボランティア参加があった。
- ・ 10月9日（日）「あしや秋まつり」では、2団体、1校および個人合わせて17名の参加者であった。エコ推進としてボランティアがゴミを集めにいくのではなく、参加者全員がボランティアとして、ゴミを拾いごみ分別をするという取り組みを行ったことにより、前年度に比べるとごみ量が減り、まつり参加者もボランティア意識が高まったようだ。企業からの協力もあった。

7 地域課題解決の仕組みづくり会議

- ・ (特活)芦屋市手をつなぐ育成会、smileねっと、精中応援隊、芦屋市公光郵便局、芦屋市商工会青年部、(社福)芦屋市社会福祉協議会、芦屋市社会、こくさいひろば芦屋、芦屋法律事務所の8団体と市民参画課とで開催する会議体通称「あしや笑顔ネット」が生まれた。
- ・ 今年度は子どもに特化して会議を進めることで、通称「あしや笑顔子どもネット」とし、年間8回の会議を開催した。市内の多種多様な団体と繋がり、子どもの居場所を作る為に「777プロジェクト」事業が立ち上がった。

8 市内中間支援団体交流事業

- ・ 8月12日（金）に中間支援組織の交流を目的とした会議を、あしや市民活動センターの指定管理者である当法人を含む3者(特活)芦屋市体育協会（芦屋市体育館）、(特活)芦屋市国際交流協会（潮芦屋交流センター）で開いた。
- ・ 12月15日(木)上記の団体で、次年度以降つながっていくための事項の意見交換をした。

9 他市からの視察受け入れ

- ・ 10月24日(月)長野県駒ヶ根市こまがね市民活動支援センター「ぱとな」視察、当センターの運営状況と利用状況の説明をした。

10 自主事業

- ・ 印刷機、コピー機を貸し出し、印刷に関する助言及び支援を行った。
- ・ 交流スペースで9団体に作品の展示、販売の場を提供した。
- ・ 9月3日（土）3月11日（土）に第1回市民団体交流会を開催した。比較的若い世代が初めて参加し新鮮だった。こうした世代の活動が促進される場になるように取り組みたい。
- ・ 利用者のくつろぎの場として自動販売機を設置し飲食の販売を行った。

【総評】

- ・ホームページをスマートフォン対応できるようリニューアルにしたことにより、ボランティア募集、イベントや講座のご案内等、情報提供への反応が高くなった。
- ・登録団体提出の報告書作成の講座や個別相談等の支援により、団体内での振り返りのきっかけになったとの声をいただいた。
- ・今年度の指針でもある「市民活動における若い世代の人材育成」として、「夏休み子どもスペシャル」「トライやる・ウィークの受け入れ」を新規に行った。開催中は多くの子どもたちでにぎわったが、その後立ち寄るといところまでいかなかったという課題が残った。
- ・新規事業のひとつとして「(施設向け) ボランティア受け入れの基礎講座」を開いた。ボランティア団体と施設とは繋いでいるが、施設側にボランティアの定着を考える機会になったと好評であり、その後も個々に相談を受けている。
- ・認知症など福祉系の相談案件等も増えており、高齢者福祉センター等との繋がりが深まった。
- ・利用状況としては、会議室利用はやや低くなったが、全体の利用者は増加傾向にある。要因としては団体の季刊紙やチラシ等の印刷や、交流スペースでの展示及び販売の支援が上がっている。

【今後に向けて】

市民の活動人口増加を目指すことを大きな目標として以下のことを行う。

- ・市民全体が参画しやすい事業に取り組む。
「777プロジェクト」「あしや市民活動フェスタ」「夏休み子どもスペシャル」
- ・交流の場を作る。
「演芸ボランティアフェア」「登録団体交流会」「団体がつくるカフェ」
- ・市民活動団体の育成に努める。
「自主講座企画応援プログラム」「NPO 法人設立基礎講座」「伝わる表現講座」「ボランティアマネジメント講座」「トライやる・ウィーク受け入れ」等
- ・情報の収集と提供をする。
「季刊紙発行」「ホームページの更新」「ボランティア情報発信」
- ・利用しやすい施設とする。
「活動のPRの場としての支援」「気軽な相談な場」

以上